

(様式)

会議議事録

会議名	2022 年度第 2 回福祉分野教育課程編成委員会
対象学科	介護福祉科
開催日時	2023 年 2 月 27 日 (月) 15 : 00 ~ 17 : 00
場所	本校 1 階会議室
出席者 (敬称略)	① 企業等委員：戸嶋哉寿男委員 (杉並区定期巡回連絡会代表)、丸山泰一委員 (社会福祉法人池上長寿園専門参与)、(計 2 名) ② 本校委員：橋本正樹 (校長)、松田 朗 (介護福祉科学科長) 中嶋純也 (介護福祉科教員)、宮下明久 (事務局参与)、(計 4 名) ③ 事務局：土屋瑠美子 (参加者合計 7 名)
欠席者	④ なし
配付資料	① 事前送付：□資料 1：2022 年第 1 回福祉分野教育課程編成委員会議事録、資料 2-1：前回 (2022 年 7 月 22 日) 委員会以降の主な経過報告、資料 2-2：2022 年度就職状況の中間報告、資料 2-3：2022 年度前期・後期授業アンケート、資料 3-1：2022 年度介護実習の報告、資料 3-2：第 35 回介護福祉士国家試験受験の報告、資料 4：2022 年度教員研修計画と実績、資料 5-1：2023 年度介護福祉科学事日程、□資料 5-2：2023 年度介護実習日程、□資料 5-3：2022 年度生・2023 年度生カリキュラム、資料 5-4：2023 年度カリキュラムマップ
委員長	松田学科長
議題等	1. 校長挨拶 橋本校長より、新型コロナウイルスの感染拡大についてはまだ予断を許さない状況が続いている一方、ウィズコロナからアフターコロナに向けた日常の生活を取り戻そうとする社会的な動きも出てきた。 3 年間にわたるコロナ禍の中で学校運営は、我々にとっても極めて異例の事態で、オンラインの活用、感染防止対策など、教育の様々な場面で臨機応変の対応力が問われた。しかし、目の前の危機に対応していくプロセスは、未来に向けて必要な変化を推し進める絶好の機会でもあり、実現に向けた第一歩を踏み出せた。決してコロナ禍の前に戻ることはできないという覚悟で、前を向き、教職員の協力の下、よりよい職業人教育の形をつくり上げたいと考えている。 実習教育の場面等では、今後もしばらくは判断の難しい問題が発生すると思うが、委員の皆様には、福祉分野の仕事の現在と将来について専門家の視点からの貴重なご意見と、本校介護福祉科の教育やカリキュラム等へのご提言をいただきたい、との挨拶が行われた。 2. 前回委員会議事録の確認 (資料 1) 丸山委員より「コミュニティー学」を「コミュニティーワーク」に修正要望があり、修正後の議事録を個人情報に配慮して公開することが了承された。

	3. 2022 年度の活動報告等 (1) 前回委員会以降の主な経過(資料 2-1、2-2、2-3) 宮下事務局参与、松田学科長より資料に基づき説明が行われ、確認、了承された。詳細は別紙のとおり。 (2) 2022 年度の活動報告 (資料 3-1、3-2) 介護実習報告 第 35 回介護福祉士国家試験受験報告 (3) 2022 年度教員研修に関する報告 (資料 4) 教員研修計画と実績 中嶋委員、松田学科長より資料に基づき説明が行われ、確認、了承された。詳細は別紙のとおり。 4. 2023 年度教育活動と学科運営について (資料 5-1～5-4) (1) 2023 年度介護福祉科学事日程及び介護実習日程 (2) 2022 年度生・2023 年度生カリキュラム 松田学科長より、資料 5-1～5-4 に基づき説明が行われ、確認、了承された。詳細は別紙のとおり。 5. 次回日程、その他 次回の日程については、2023 年 7 月末から 8 月にかけて行うことを予定している。改めて調整することが了承され、閉会した。
--	--

以上

2022 年度第 2 回福祉分野教育課程編成委員会の主な討議内容

3. 2022 年度の活動報告等

(1) 前回委員会以降の主な経過(資料 2-1、2-2、2-3) (宮下事務局参与)

1. 学生の状況関連

(1) 退学の状況

(2) 就職内定の状況

2. 2022 年度授業アンケート等の実施状況

- ・前期は 6 月、後期は 11 月 28 日～12 月 9 日に実施。

3. 2023 年度生募集状況

※補足説明 (松田学科長)

- ・就職内定者は伸びている。3 月末までには全員就職できていると考えている。
- ・アンケートについては、私語や居眠りを注意できていないとの指摘を受けた。自由に発言できる雰囲気、学生の体調への配慮との兼ね合いが難しい。担任や講師の先生も含めて意見交換し、改善していきたい。

○質問・意見と回答等は次のとおり。

質問・意見等	回答等
3 月 4 日と 19 日に入試があるが、第 2 次、第 3 次で応募する人は結構いるのか。	あまり多くは見込めない。最後に小さな波があればと考えている。 今は各種資料も動画や図、漫画が主流になっている。本校は文字情報が多いので、次年度はもう少し分かりやすく、切れのあるプレゼンテーションを展開していきたい。 今年度は留学生が復活してきた。日本人学生も含めて、今は学生目線、出願者目線で対応していかなければならない。例えば居眠りにも様々な原因がある。そこに歩み寄ってサポートすることでよい評判が立ち、募集につながるとよいと思っている。

(2) 2022 年度の活動報告

○介護実習報告 (中嶋委員) (資料 3-1)

- ・コロナ禍の中、3 年連続で全員が施設実習を受けることができた。見学だけであっても、実習先に行くことが必ず学びにつながるという信念のもと、現場に行くことにこだわってやってきた。
- ・1 年生の第 1 段階介護実習は、特養 8、老健 3、通所 1、障害のグループホーム 1 の計 13 施設で実習を受け入れていただいた。

・2年生の第3段階介護実習は9～10月に実施したが、急遽中止になった施設が3か所あり、新規で1か所と既存の施設に5名分を振り分けて行い、そこから就職につながったケースもあった。実習施設は特養6、老健3の9施設となった。PCR検査と抗原検査については、3施設で実習前日までに済ませるように求められ、2施設では実習当日の朝、早めに来て検査をした。実習中は基本的に施設で毎週検査を行うが、今後この辺がどうなっていくのか改めて確認したい。

・1年生の第2段階は10月17日～11月10日に実施した。クラスターは発生せず、特養8、老健5の計8施設で予定どおり実施された。事前のPCR検査・抗原検査が6件、当日の抗原検査が1件で、今後も確認が必須と感じている。

・本来は2月に実施しており、まだ1年生の学びの途中で第2段階の介護課程を展開するという急ピッチな設定だったが、一人一人の頑張りで課題は全部達成して帰ってきた。あとは学校で質を高めることを意識していきたい。

○質問・意見と回答等は次のとおり。

質問・意見等	回答等
第5類になると、PCR検査等の事前確認は必要なくなると思う。	次年度は大きく変わってくるという心構えで臨みたい。
要介護者という体の弱い方をみている業界からすれば、その方向へ行っているのかという不安もある。	
ご自宅で介護を受けている方々はどうか。	施設に比べると感染対策はルーズな感じがある。
施設はクラスターの発生を意識している感じがある。	クラスターが発生したこともあり、苦勞がしみついているため、ピリピリしたところがある。
学生は怖がっていなかったか。	だいぶ空気が変わった。5月以降はほとんどアフターコロナになってしまう予感がある。
ワクチンの3回接種はやっているか。	強制できないので、個々に委ねている。
	罹患自体にワクチンの回数は関係ないという見方が増えているのではないか。

○第35回介護福祉士国家試験受験報告（松田学科長）（資料3-2）

- ・2023年1月29日（日）に行われ、2年生15名全員が受験した。
- ・自己採点の結果、総じて高得点だった。問題の傾向が昨年度より少し易しかったのかもしれない

が、学生もよく頑張った、特に留学生は非常に頑張ったと思う。

・受験対策としては、模擬試験、苦手克服の講習、直前ゼミの3本柱で行ったが、満足度は直前ゼミが一番高かった。苦手克服講習は50%を切っていたので、次年度はがらっと変えていきたいと思っている。

(3) 2022年度教員研修に関する報告

○教員研修計画と実績（松田学科長）（資料4）

・ほぼ計画に沿った形で研修を受けることができた。

・2回にわたって受けた新型コロナウイルス感染症に関する研修のほか、傾向としては留学生関係（学習指導、国家試験対策）、ハラスメント、メンタルヘルス、地域社会の中での介護福祉士の役割に関する研修が目立った。地域によって社会資源も違うので、クリエイティビティーが重要になるとともに、東京のようにつながりの薄いコミュニティの中で、介護についてどのように働きかけ、何をつくっていけるのか、改めて考える機会になった。

4. 2023年度教育活動と学科運営について

○2023年度介護福祉科学事日程及び介護実習日程（松田学科長）（資料5-1、5-2）

・基本的には学校のスケジュールに沿う形で授業を展開していく。

・学園祭は3年ぶりに11月に開催した。次年度もイベントや行事を実施する方向で準備を進めている。

・実習計画は、従来の計画をベースにしながら少し修正する形で展開していく。

・アフターコロナを見据えて1年生の第2段階実習を2月に戻した。

・在宅実習については、地域密着型のグループホーム、小規模多機能サービスでの4日間の短期実習を夏休みに計画した。訪問介護実習は2年生の夏休み中の4日間で実現させたい。

・なるべく近くで実習先を確保できるように、新規の施設や在宅サービスを展開している事業者との契約を進めている。より多くの施設でいろいろなサービスに触れる機会や選択肢を増やしたい。

○質問・意見と回答等は次のとおり。

質問・意見等	回答等
実習の受け入れについてはどうか。	まだ確定ではないが、ぜひお受けできればと思っている。 面会を解禁するタイミングで、実習もお受けできるのではないかと思う。
施設では担い手が少なくなっていくことへの危機感を持っており、養成機関としての責任の重大さを感じている。一方で、留学生の実習生の受け入れについてはいろいろなルートがあると思うが、今はどのような状況か。	今年初めてEPAで留学生を受け入れた。いろいろな視点からのサポートが必要で、目からうろこ状態である。
在宅の方での留学生の動きはどうか。	あまり動きはない。どこも人材確保に苦勞している。利用者さんの留学生に対する抵抗感は10年前に比べるとだいぶ変わってきたが、まだ残っ

ある施設で、通所の方は正面玄関から普通に出入りし、特養の方は外と中で分かれて面会していた。施設によって様々な管理体制があると感じた。	ている人もいる。 ゾーン分けという考え方で、今は施設でも苦情が増えている。家族の信頼を確保することも重要なので、どの特養もせめぎ合いになっている。
---	---

○2022 年度生・2023 年度生カリキュラム（松田学科長）（資料 5-3、資料 5-4）

- ・2022 年度生（今の 1 年生が 2 年生になったときに学ぶ内容）のカリキュラムには、大きな変更点はない。
- ・2023 年度生（新 1 年生）のカリキュラムは、新カリキュラムでスタートする。「生きがいと地域社会」が増え、「介護福祉事務」は他の科目に吸収させる形にして単独の科目としては削った。
- ・「介護の基本Ⅰ」～「介護の基本Ⅳ」、「生活支援技術Ⅰ」～「生活支援技術Ⅶ」は中身を見直し、再度構造化を試みた。
- ・資料 5-4-1 は、卒業時まで目指すべきコンピテンシーの部分を表している。何かを共有する、誰かと一緒に協力的に働く、0 から 1 を生み出す創造性、人と関わる中で「よかった」と思えるために何ができるかを考えることなどの達成課題を掲げている。
- ・科目の中身は、規定の科目プラスアルファでオリジナルの科目を展開していく。実習時間は 480 時間。在宅のグループホーム等の実習で、今までより 30 時間増えている。
- ・資料 5-4-3 は、4 つの達成課題に対する自己評価表で、教員と学生とで共有している。中身についてご意見をいただければありがたい。
- ・評価表に関するアンケートを取った結果、どの課題も一番低い評価をしている人間は一人もいなかった。あくまでも自己評価なので、過大評価も軽んじることもせず、参考にしていきたい。

○質問・意見と回答等は次のとおり。

質問・意見等	回答等
介護福祉科卒業時に目指す達成課題はすごく難しい。学生には、具体的に例示をして取り組ませたのか。 自分の行動をこの標語に寄せる訓練をされているということかと思う。 研修生でもこの部分は教育することが難しい。丁寧に何度も例を出すことで、気づきを得られる授業は素晴らしい。 「介護を楽しむための学び（科目）の全体図」は、ステップアップしていくもので、基準の土台にあるものが「人間関係とコミュニケーション」で、一番上にあるのが「人間の尊厳と自立」という感じか。 現場や地域に出て行ってコミュニティワークをするという話は、「生きがいと地域社会」の中でやるのか。 大学も地域とつながろうとしている。重層的支援体制になる中で、学校が地域を意識するのはよいことだと思う。	授業の中で、どんなことがそれに相当するかは伝えている。例えば、「共有」「共感」を言葉で言うのは簡単だが、自分で具体的に何かに置き換えて解釈させる。分かったつもりにならないように戒めながら、自分で考えて、最善の答えを出すというところに2年間でたどり着きたいという思いでやっている。 心構えや発想、よりどころ的なものは、養成校で時間をかけるからこそ学べるものだと思う。この辺がある程度身につくと、仕事を楽しめるのではないかという狙いもある。 「人間の尊厳と自立」が上位概念にあり、それを支えるためにはこれだけのことを学び続けなければならないという意味合いである。 そこでできたらいいと思うが、まだ授業の中に取り込めるような環境をつくれていない。イメージとしては、幾つになっても楽しく遊べる社会（コミュニティ）を大事にして、自治体や事業者と連携し地域活動をしていきたい。 生活が分からないと介護はできない。学生には経験値を広げるために、自分からリスクに飛び込んでいく勇気と楽しむことをセットで身につけてほしい。地域社会の中でそういう循環をつくって、育めたらと思う。

以上